(その3)

工場又は事業場の名称	JFE スチール株式会社 東日本製鉄所(千葉地区)
------------	------------------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

ア 計画年度に実施する対策の内容

(1) の計画年度の削減率を達成するための対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
2	9	3	9						

その他(19、29、39、49、59、99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

これまで当社においては、環境基準が定められているベンゼンについて、重点的に取組み、下記の様な対策を行い VOC の削減に努めております。

<対策1について>
ドア部からのガス漏れが発生した際には、迅速にガス漏れを抑止する応急処置を行うことができる体制を構築、継続的に実施しております。

<対策2について>
コークス炉のドアフレームを更新し、①ドアとフレームの間のソフトパッキン化、②炉体とフレームの間のライナー調整により密着性を向上させドアからのガス漏れを抑制しています。

<対策3について>
平成 28 年 10 月に 6 A コークス炉更新工事が完了し、6 A 炉を立ち上げました。更新後はドアからのガス漏れが従来に比べて抑止されております。
平成 28 年 10 月より 6 B コークス炉更新工事に着手しました。工事中は 6 B コークス炉からのベンゼン排出はゼロです。

上記のような対策を実施することにより、平成 12 年度から比較すると、平成 29 年度は排出量を 40%削減する計画となっています。今後もこの対策を維持、管理していくことで排出の抑制に努めていきます。

年度	排出量 (kg/年)
H12年度 (基準年度)	15,000
H22年度 (目標年度)	11,000
H23年度	6,500
H24年度	5,400
H25年度	4,900
H26年度	3,900
H27年度	5,500
H28年度 実績	4,800
H29年度 計画 (計画年度)	9,000

備考 3 (2) に記載する対策も含めて記載すること。

イ 目標年度の削減率を達成するために実施する対策の内容

(1) の目標年度の削減率を達成するため、基準年度の翌年度以降新たに実施し、又は実施した対策について、別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
2	9	3	9	5	9	1	1		